

# ウクライナから見たロシア、ロシアから見たウクライナ論

## 第1回 ウクライナ、政治的一体性を欠いた独立

2024年2月7日

エコノミスト 西谷公明

### はじめに

- ・自己紹介、問題意識、全体構成

### 1. ソ連崩壊とウクライナ独立

モスクワ 8月クーデター後、キエフを訪れる

- ・「平穏なる独立」、背景と意味
- ・ロシアはなぜウクライナを引き留めたか？
- ・五穀豊穡、多様な産業基盤
- ・国民経済は如何にして形成されるか
- ・民族独立派主導の国造り
  - ～ルールと訣別、フリブナ発行へ
  - ～ロシアとの確執～ハイパーインフレに見舞われる

### 2. 内なるロシア、内なるヨーロッパ

過ぎし時代の記憶

- ・「キエフ・ルーシ」、キエフを都とするルーシの公国について
- ・コサック国家とモスクワ公国～ロシア帝国の形成～ロシア化とウクライナ民族主義
- ・西ウクライナ、非ロシアの歴史～「ユニエイト」（東方典礼カトリック教会）とは？

マイダン政変について

- ・「10年毎に革命が起きる」国
  - ヤジロベいの如く：1994年東へ、2004年西へ（オレンジ革命）、
  - いったん東へ戻るも、2014年再び西へ（マイダン政変）
- ・北米ウクライナ系移民の祖国愛～インターナショナル・コミュニティ

以上

# ウクライナから見たロシア、ロシアから見たウクライナ論

## 第2回 ロシア、彷徨えるアイデンティティ

2024年2月14日  
エコノミスト 西谷公明

### 前回のおさらい

#### 1. 復活する資源大国

- ・プーチンがロシア国民の心をつかんだ日
- ・ロシア史におけるソ連崩壊
- ・ロシアはなぜウクライナを引き留めたか？
- ・資源大国ロシアの復活

#### 2. ロシア進出の経験から

- ・オイルロケット～オレンジ革命の影
- ・ロシアのお国柄とロシア人
  - ～強大であること、すなわち美～猛々しい野性～運命に従う寛容さ～幾度か天を仰ぐ
- ・2022年10月、元部下たちとの再会

#### 3. 北のフロンティア国家

- ・2015年夏、モンゴル草原にて
- ・ロシア領土の特殊性～本国と植民地が陸続きであること～“民族カースト”
- ・ロシア史は中央集権国家の歴史である
  - ～変わらないレジーム～モンゴル支配の母斑？
- ・プーチンのロシア～資源大国の実像
- ・ロシアはクリミアを手放さない
  - ～ロシア史におけるクリミア～対 NATO 安全保障の要（かなめ）

以上

# ウクライナから見たロシア、ロシアから見たウクライナ論

## 第3回 冷戦終結後の30年を俯瞰する

2024年2月21日  
エコノミスト 西谷公明

### 前回のおさらい

#### 1. 歴史は4度、繰り返す？

- ・国力の遠景：GDPと経常収支の比較
- ・崩れないロシア  
～制裁の影響は？～強さの背景にあること
- ・苦境に立つウクライナ  
～“パン”も“銃”も西側頼み～西側の支援が途絶える日

#### 2. 問題の根っ子はどこにあるか？

- ・ソ連崩壊と国境線の画定
- ・ウクライナにおける民族と領土
- ・クチマ政権（1994-2004）vs ゼレンスキー政権（2019-）
- ・独立ウクライナの30年：
  - －政治：地政学的な選択と民族主義の圧力に突き動かされる
  - －経済：発展の可能性を生かせず、国民生活の向上に失敗畢竟、戦争は政治の延長でもある

#### 3. まとめ：国際社会の正義が揺れる時

- ・冷戦終結から30年
  - －理念：“力による国境変更を許すべからず”
  - －現実：分断され、対立し、不安定化する世界  
(背景に、中国の強大化とアメリカの変容、一強覇権国の揺らぎあり)
- ・最後は、リアルな現実が帰趨を決める（＝ウクライナ国民自身が決めるべきこと）
- ・ウクライナ復興への希望：ロシア敵視でまとまる国民～強さが試されるのは停戦後
- ・ロシア：外を“銃”で固め、（西側との関係では）内を向く社会へ（イラン化）  
“ソ連崩壊後”は、いまでも続く長いプロセスである

以上